

2 香美監査第4号  
令和2年7月28日

香美市長 法光院 晶一 様

香美市監査委員 岡本 明弘  
香美市監査委員 岩崎 昭雄  
香美市監査委員 小松 紀夫

### 令和元年度香美市水道事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和元年度香美市水道事業会計の決算審査を実施したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

- 1 基準に準拠している旨  
監査委員は、香美市監査基準（令和2年香美市監査委員告示第1号）に準拠して審査を行った。
- 2 審査の種類  
決算審査（地方公営企業法(昭和27年法律第292号)第30条第2項の規定による審査)
- 3 審査の対象  
令和元年度香美市水道事業会計決算報告書
- 4 審査の着眼点  
審査に付された決算書類が関係法令に準じて作成され、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に示しているかどうか、また、経営分析及び内容が適正か等の検証をした。
- 5 審査の実施内容

決算審査にあたっては、関係職員に説明を求めるとともに、決算書類が関係法令に定められた様式に準じて作成され、水道事業の経営成績及び財政状態を適正に示しているか等の形式審査と、経営分析及び内容が適正か等の実質審査を行った。

また、公営企業の経営の基本原則である企業の経済性と公共の福祉の増進については特に留意して審査した。

## 6 審査の実施場所及び日程

香美市役所 監査委員事務局 ・ 令和2年7月20日、21日

## 7 審査の結果

### ①形式審査

決算書類は関係法令に定められた様式に準じて作成されており、経営成績や財政状態を適正に示しているものと認められる。

### ②実質審査

#### 年度比較分析

##### ア 対前年度比較（以下、令和元年度決算と平成30年度決算の比較）

##### A 比較損益計算書

##### a 収益

収益に関して特筆すべき事項は、他会計負担金（前年度比 13,023,561円、198.62%の増）、受取利息及び配当金（前年度比△55,040円、79.61%の減）、給水装置新設分担金（前年度比 △810,000円、18.75%の減）である。

他会計負担金の増加要因は、委託料及び人件費の一部を特別会計等の負担にしたことによるものであり、受取利息及び配当金の減少要因は、定期預金の預入利率の低下等によるものである。また、給水装置新設分担金の減少要因は、給水装置の新規設置件数の減少によるものであり、前年度と比較して収益（11,356,547円、5.30%の増）は増加となった。

##### b 費用

費用に関して特筆すべき事項は、減価償却費（前年度比 26,200,190円、47.19%の増）、原水及び浄水費（前年度比15,879,587円、39.14%の増）、総係費（前年度比 △22,519,812円、34.66%の減）である。

減価償却費の増加要因は、平成30年度までに整備していた水源地の減価償却が始まったためであり、原水及び浄水費の増加要因は、委託業務の増加等によるものである。また、総係費の減少要因は、人件費及び委託料の減少によるものであり、前年度と比較して費用（20,430,265円、11.11%の増）は増加となった。

c 営業利益・経常利益・純利益・各種指標

費用が増加したことにより、各種利益等が減少している。

以上のことから、収益の増加よりも、費用の増加が大きかったため、営業利益及び経常利益が減少となった。

B 比較貸借対照表

a 資産

資産に関して特筆すべき事項は、現金預金（前年度比  $\Delta 93,119,896$ 円、22.16%の減）の減少である。これは前年度の未払金の支払いが多額であったこと及び施設の維持管理費用が増加したことによるものである。

固定資産の減価償却も含め、前年度と比較して資産（ $\Delta 178,364,583$ 円、9.46%の減）は減少となった。

b 負債

負債に関して特筆すべき事項は、未払金（前年度比  $\Delta 163,063,867$ 円、84.25%の減）の減少である。

前年度と比較して負債（ $\Delta 199,546,908$ 円、26.23%の減）は減少となった。

c 資本

資本に関して特筆すべき事項は、組入資本金（前年度比  $249,236,680$ 円、38.28%の増）の増加である。これは前年度の建設改良積立金を資本金に組み入れたためである。

前年度と比較して資本（ $21,182,325$ 円、1.88%の増）は微増となった。

d 各種指標

自己資本構成比率、総資本回転率ともに増加している。

以上のことから、資産と負債は減少し、資本は微増していることから概ね健全な水準を維持している。

C 比較キャッシュ・フロー計算書

a 業務活動によるキャッシュ・フロー

未払金（ $\Delta 332,451,352$ 円）が減少となっているが、これは前年度と比較して3月末時点で支払いが完了していない工事費等が少なかったためである。

- b 投資活動によるキャッシュ・フロー  
有形固定資産取得による支出及び有価証券売却による収入がともに減少している。
- c 財務活動によるキャッシュ・フロー  
企業債の償還額を表したもので、企業債の償還に充てている。

以上のことから、当年度の現金収支の状況は、概ね適正である。

- D 比較収益費用明細書  
事業収益、事業費用ともに比較損益計算書と同じため省略する。

#### イ 直近5年間の推移

##### A 経常収支年度間比較表

- a 収益  
この5年間は、ほぼ横ばいに推移している。
- b 費用  
この5年間は、多少の増減はあるもののほぼ横ばいに推移している。

##### B 業務量の推移

給水人口は、ほぼ横ばいではあるが、年間給水量は年々微増で推移している。

#### 8 むすび

当年度水道事業会計では、他会計からの負担金による収益の増加があったものの、新規施設の減価償却の開始や業務の外部委託、施設の老朽化に伴う修繕等による費用の増加により、純利益（△9,073,718円、29.99%の減）が前年度に比べて減少し、経常収支比率（6.07ポイントの減）、営業収支比率（3.95ポイントの減）ともに前年度より低くなっている。

老朽化に伴う修繕及び南海トラフ地震に備えた耐震化も急務となっている中で、今後は「香美市水道事業経営戦略」に沿って、水道料金の改定を含め経営健全化に取り組み、安心・安全で安定した飲料水の供給を図るよう努められたい。